

No.12, pp 66~71

10.XI.1968

寄せ蛾記

埼玉蛾類談話会 発行

YOSEGAKI ; THE SAITAMA HETEROCHERISTS' GROUP

(埼玉県蛾類分布資料 32)

川口市付近の Orthosia 属について¹⁾

大島 進一

埼玉県産の Orthosia 属については、市川和夫・並木裕雄(1966)により整理発表されている。それによると、ヨモギキリガ・クロミミキリガ・カバキリガの3種が川口市に産する Orthosia 属として記録されているが、その後私が調べたところでは更に1種が川口市内およびその周辺地域で採集できることがわかった。そこで、川口市およびその周辺で採集されている全ての Orthosia を記録するとともに、各種についての解説および会市概念などについて記述する。

(A) 川口市付近から新たに記録する Orthosia 属 (1種) とその解説。

1. *Orthosia evanida* (カバキリガ)
3月下旬から4月上旬にかけて普通。山地の個体に比べて大型で色彩は単調。
2. *Orthosia angustipennis* (ホソバキリガ)
3月下旬から発生するが少い。
3. *Orthosia paromea* (ブナキリガ)
3月下旬から発生するが少ない。駆状紋の茶黄色の縁どりが明顯な個体が多い。
4. * *Orthosia nigromaculata* (カギモンキリガ)
川口市内はもとより、埼玉県内からも未記録であった。非常に少ないらしい。
(記録) 川口市一本木 31 III 1968 1 ex. 崎本 和平 採集
5. *Orthosia fausta* (クロテンキリガ)
3月中旬から4月中旬にかけて発生するが少い。
6. *Orthosia cedermarki* (ウスベニキリガ)
4月中旬ごろ発生するが個体数は多くない。県外では平地から初めて記録したのは尾熊勇(寄せ蛾記 No.9)である。
7. *Orthosia limbata* (シロヘリキリガ)
3月下旬ごろに発生するが多くない。尾熊は浦和で採集している(寄せ蛾記 No.9)。
1) ヤガ科 ヨトウガ亞科(早春にのみ発生するキリガ類)
2) 寄せ蛾記 No.6 pp 29~32 (埼玉蛾類談話会)

8. * *Orthosia mirabilis* (アトジロキリガ)

埼玉県未記録であった。まだ2頭目は採集されない。

[記録] 浦和市美園(大門小学校) 1合, 9. IV. 1968 鶴巻 照夫採集

9. *Orthosia odiosa* (チャイロキリガ)

3月中旬から4月中旬にかけて発生する普通種。ただし、カバキリガやアカバキリガのように多産はしない。

10. *Orthosia munda* (スモモキリガ)

3月中旬から5月上旬にかけて発生するが少い。

11. *Orthosia gothica* (カシワキリガ)

4月上旬ごろに発生するということだが、残念ながら私自身は採集したことはない。本種の土着には少し疑問があるるので、後日再調査したい。

(B) 川口市付近からすでに記録されている *Orthosia* 属3種について。

12. *Orthosia ella* (ヨモギキリガ)

少いものと思われる。私自身はまだ本種を確認できていない。

13. *Orthosia lizetta* (クロミミキリガ)

3月中旬から下旬にかけて発生するが多いものではない。

14. *Orthosia carnipennis* (アカバキリガ)

3月上旬から4月下旬にかけて発生する普通種。山地の個体よりも大形で美しい。

(C) 未記録種についての所見。

川口市付近の *Orthosia* 属は、以上の様に埼玉県新記録2種を含めて14種となり、また、埼玉県産は18種となる。

川口付近で未記録の5種について今後採集される可能性などと記述してみよう。

1. ミママカバキリガ

関東地方での本種の記録はほぼ1,000以前後の山地帶のみであり、可能性はないと思われる。

2. アオヤマキリガ

山地には普通だが、川口では無理。

3. ゴマフキリガ

この2種の県内における採集記録が少ないので推察困難。

4. イイジマキリガ

最近発見された新種だが、本種が最も可能性がある。山地では発生が最も遅い *Orthosia* として知られているが、当地ではもっと早く発生すると思う。

日本産 <i>Orthosia</i> 属	川口付近	埼玉県
1 カバキリガ	◎	○
2 ミママカバキリガ	—	○
3 アオヤマキリガ	—	○
4 ヨモギキリガ	○	○
5 ホソバキリガ	◎	○
6 ブナキリガ	◎	○
7 カゼモンキリガ *	◎	◎
8 クロテンキリガ	◎	○
9 クロミミキリガ	○	○
10 イイジマキリガ	—	○
11 ウスベニキリガ	◎	○
12 シロヘリキリガ	◎	○
13 ゴマフキリガ	—	○
14 アトジロキリガ *	◎	◎
15 チャイロキリガ	◎	○
16 スモモキリガ	◎	○
17 カシワキリガ	◎	○
18 アカバキリガ	○	○
19 ナマリキリガ	—	—

○ すでに記録のあるもの。

◎ 今回あらたに記録したもの。

— 未記録のもの。

[埼玉県産蛾類分布資料 33]

埼玉県未記録の蛾 [1]

並木彬雄

筆者の手元には、若干の埼玉県未記録あるいは未記録と見られる蛾類がある。それらについて整理のついたものから順に発表することにし、今回は、ヒトリガ科2種・マガ科5種を記録することにした。

[ARCTIIDAE]

1. * *Spilosoma lewisi* BUTLER クロフシロヒトリ
2♂♂ 三峰山頂ケーブル駅(埼玉県秩父郡) 14 V 1961
2. * *Arctia caja phaeosoma* BUTLER ヒトリガ
1♂ 三峰山頂ケーブル駅 12 VIII 1963
1♂ 川口市、神根 24 IX 1960

[NOCTUIDAE]

1. * *Harrisimemna marmorata* HAMPSON スギタニゴマケンモン
3♂♂ 三峰山頂ケーブル駅 5 VII 1964
2. * *Callopistria aethiops* BUTLER アマナミツマキリヨトウ
1♂ 三峰山頂ケーブル駅 5 VII 1964
3. * *Mimanuga japonica* LEECH ノコバフサモクメ
1♂ 三峰山頂ケーブル駅 4 X 1964
4. * *Pelamia electria* BREMER ユミモンクチバ
1♂ 川口市、神根 7 VII 1962
(昼間、草の間から飛び出したものを採集したもの、灯火には飛来しないらしい)
5. * *Hypocala subsatura* GUENÉE タイワンキシタマガ
1♂ 三峰山頂ケーブル駅 4 X 1964

川口市のミスジチョウ

並木彬雄

1961年5月28日、私と大島進一君とで川口市戸塚(旧美園村)方面へヒヨウモン類やゼフィルスの採集に出かけた折に、偶然ミスジチョウを採集することができた。

その後、毎年気をつけてきたが、現在までに次の3個体が得られたのにすぎない。

- 1♂ 川口市戸塚 28 V 1951
(並木彬雄採集保管)
1ex 川口市戸塚 - V 1963
(大島進一採集)

1♂ 川口市戸塚 13 VI 1965
(飯島宣雄採集、並木彬雄保管)

この地域は、大宮台地を川口方面よりやや奥に入り、国道122号線に沿った所で、雑木林が発達した好採集地の一つである。しかし、最近日光バイパス・武蔵野東線が採集地のすぐそばを通る様になり、また、宅地化が進んできたので、ここも間もなく虫の姿を消す運命にあるのは残念だ。

なお、越冬幼虫の採集を数回こころみたが、現在までには未だ発見していない。

朝霞市片山での夜間採集の結果

齊藤 悟

1967年の秋に、3回にわたって埼玉県朝霞市片山において夜間灯火による採集を行い、次の蛾を得たので報告します。採集中あたっては、当地にある集油所の500ルックス水銀灯の近くに暮宿し、その光に飛来したものを得た。

(A) 1967年10月21日 午後5時～11時

1. *Herse convolvuli* エビガラスズメ 1ex.
2. *Caligula boisduvalii jonasii* ヒメヤママユ 1♂
3. *Hermonassa cecilia* クロクモヤガ 4 exs.
4. *Agrotis ipsilon* タマナヤガ 1♀
5. *A. fucosa* カブラヤガ 1♂
6. *Amathes dilatata* ウスチャヤガ 1♂
7. *Diarsia canescens* オオバコヤガ 1♂
8. *D. deparca* コウスキヤガ 1♂
9. *Leucania loreyi* クサシロキヨトウ 2 exs.
10. *Gortyna fortis* ゴボウトガリヨトウ 1 exs.
11. *Amphipyra livida* *corvina* カラスヨトウ 2 exs.
12. *Prodenia litura* ハスモンヨトウ 9 exs.
13. *Dadica lineosa* シロモンオビヨトウ 4 exs.
14. *Plusia tarassota* ニシキキンウワバ 2 exs.
15. *P. rutilifrons* ギンスジキンウワバ 1 ex.
16. *P. hebetata* モモイロキンウワバ 2 exs.
17. *Oraesia excavata* アカエグリバ 1♂, 1♀
18. *Simplicia niphona* オオアカマエツバ 1 ex.
19. *Euproctis pseudoconspersa* チャドクガ 7 exs.
20. *Gonodontis arida* エグリズマエダシック 2♂♂, 3♀♀
21. *Ourapteryx nivea* ウスキツバメエダシック 1 ex.
22. *Macalla elegans* ナカアオフトメイガ 1 ex.
23. *Herculia glaucinalis* フタスジシマメイガ 1♀
24. *Botyodes principalis* オオキノメイガ 1♀
25. *Micractis varialis* フキノメイガ 1♂

(B) 1967年11月2日 午後5時～7時

26. *Caligula boisduvalii jonasii* ヒメヤママユ 1♀
27. *Agrotis fucosa* カブラヤガ 1♂
28. *Leucania insecuta* スジシロキヨトウ 1♀
29. *Vateroides viridimacula* アオバハガタヨトウ 1♀
30. *Plusia nigrisigna* タマナキソウワバ 1 ex.
31. *Zanclognatha arenosa* ウスキミスジツバ 1 ex. □

5月初め川浦谷の蝶

原 聖樹

1966年5月1日(晴)，秩父郡大滝村の川浦谷を訪れたので，その際に採集・目撃した蝶を記録しておく。

*印は採集し標本を保存してあり，その他はすべて目撃例であるが，ここに掲げたのはそのままに自信が持てるものはばかりである。種名・採集個体の次にある印は，○は新鮮，◎は汚損，◎はその中間にあると思われる個体であることを示す。

1. *Erynnis montanus* ミヤマセセリ 1♀ ○, 合早とも◎少なからず.
2. *Chodspes benjamini japonica* アオバセセリ 3 exs. ○
3. *Pelopidas jansonis* ミヤマチマバネセセリ 1♂ ○*
4. *Parnassius glacialis* ウスバシロチョウ 2♂ ○*
5. *Papilio bianor dehaanii* カラスアゲハ 1♂ ○
6. *Eurema hecabe mandarina* キチヨウ 1♀ (越冬)
7. *Colias erate poliographus* モンキチヨウ 合早少なからず.
8. *Pieris rapae crucivora* モンシロチョウ 合早多
9. *P. melete* スジグロシロチョウ 1♀ ○*, 合早多
10. *Lycaena phlaeas daimio* ベニシジミ 合早多
11. *Celastrina argiolus ladonides* ルリシジミ 合◎多
12. *Neptis aceris intermedia* コミスジ 3♂ ○
13. *Polygonia c-album hamigera* シータテハ 1♂ (越冬)
14. *Vanessa indica* アカタテハ 1 ex. (越冬)
15. *Kaniska canace no-japonicum* ルリタテハ 2 exs
(越冬)

埼玉県内におけるチョウ(蝶)類の分布表を作成したいので、
おねがい!
普通種でも結構ですから、採集記録や正確な目撃報告をどうぞ
しそう送り下さい。各地からの報告を特に希望します。

AC 1967年11月18日 午後5時～9時

4. *Agrotis ipsilon* タマナヤガ 1 ex.
5. A. *fucosa* カブラヤガ 1 ex.
32. A. *tokionis* オオカブラヤガ 1 ex.
7. *Diarsia canescens* オオバコヤガ 1 ex.
33. *Telorta divergens* ノコメトガリキリガ 1♀
34. T. *edentata* キトガリキリガ 4 exs.
18. *Simplicia niphona* オオアカマエアツバ 1 ex.
35. *Xanthorhoe saturata* フトジマナミシヤク 1♂, 1♀
36. *Dysstroma citrata conformalis* ツマキナガジロナミシヤク 1♀
37. *Megabiston plumosaria* チャエダシヤク 1♂, 1♀

(自然保護への道 1)

原聖樹君の報告を見る

市川和夫

自然保護の実例として、この号にもみられる原聖樹君のチョウの報告例を取り上げてみたい。彼は以前からチョウを愛しチョウを調べ続け、その報告をみてもチョウ類の保護には格別の注意を拂っていることがうかがえるし、また、単なる報告よりも一步前進した書き方をしている。

このことは多くの昆虫愛好家への良き教訓となると信ずるし、彼流の報告形式は、すべての虫に当たはぬ訳にはいかないが、その精神は誰もが見習う必要がある。

すなわち、(1)なるべく採らない(種名の判定が困難なもののみを採集し、採つても判ったものは見た放してやる)。

(2)各種の研究調査の為に止むを得ず採集する場合、最低必要限度に止め、その場合でもなるべく時は採らない様にする。

(3)報告の際には、な人らかの形で生態的知見を加える(彼独特のOは新鮮、◎は中位、△は汚損など)。

(4)その他。

以上のこととは誰もが考へてはいるものの

実行している人の数は少い。そして、とくに(1)と(2)とは、少くとも都市周辺など「絶滅寸前」というチョウの置かれた現実の立場」を救うと同時に、チョウを調べる人の研究意欲を大体満足させるのに価いする一つの方法であるといえよう。

天然記念物に指定された6種の昆虫

この11月1日に文化庁では10件の動物を天然記念物に指定したが、その内昆虫は下記のもので、いずれも今年日本に復帰(6月26日)した小笠原諸島に産む。

- (1)オガサワラシジミ (2)オガサワライトンボ (3)シマアカネ (4)オガサワラトンボ (5)ハナダカトンボ (6)オガサワラタマムシ

この様に一度に6種の虫が指定されたのは初めてで、とくにトンボ類が多いのは「極端に淡水がないこの諸島に現存するめずらしい種である」と朝日新聞(11月2日、朝刊)では解説していた。

他に同時に指定されたものは、メグロ・アカガシラカラスバト・オガサワラオコオエリ・アカヒゲの4動物。